『まち保育のススメ』の代表編著者である横浜市立大学・三輪律江先生を迎えた、講演と2回の研修を通じ、参加者の皆さんと共に、"まち保育"の意義と効果について考え、現実のまち資源をフル活用したおさんぽマップを一緒につくるオンラインによる連続セミナーを行いました。



# ①まち保育連続セミナー 講演会「まち保育」のススメ 一まちで育てることはまちが育つこと―

【日程】2020年12月19日(土)19:00~21:00 オンライン開催 参加者51名

【主催】国際校庭園庭連合日本支部

【協力】まち保育研究会、株式会社ゼンリン

#### 【スケジュール】

19:00~19:10

<司会あいさつ>

松橋圭子(東京都市大学准教授、国際校庭園庭連合日本支部会員、 まち保育研究会)

#### <開会挨拶>

仙田 考 (鶴見大学短期大学部准教授、国際校庭園庭連合日本支部代表)

19:10~20:30

#### <講義>

三輪律江(横浜市立大学准教授、国際校庭園庭連合日本支部副代表)

「まち保育」の意義と効果の基礎的理解:「まち保育」のススメーまちで育てることはまちが育つこと-

20:30~20:40 休憩

20:40~20:55 質疑応答 まとめ

20:55~21:00 次回の予告:三輪律江

閉会あいさつ:松橋圭子







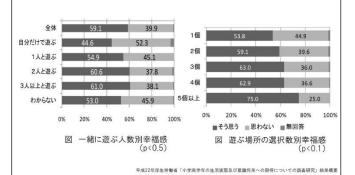
#### こどもってまちのどこで育つ?出会う?遊ぶ? 「まち保育」の着想のきっかけと実践(配布資料より抜粋)

## 親子で出かける際の選択基準

ベスト10

/	全体	%	1歳半未満	%	1歳半以上	%	
1位	家から近い	31.5	おむつ交換、横になるスペース	50.0	家から近い	33.1	
2位	おむつ交換、横に なるスペース	27.3	家から近い	29.4	同年代の子どもが 多い	25.0	
3位	子どもの大声が気 にならない	21.4	子どもの大声が気 にならない	22.5	無料で利用	23.5	
4位	清潔	20.2	清潔	19.6	清潔	20.6	色凡例
5位	同年代の子どもが 多い		親も子どもも一緒 に楽しめる		子どもの大声が気 にならない		設備·機能
6位	親も子どもも一緒 に楽しめる	19.3	同じ育児中の人が いる	13.7	幼児用遊具の充 実		環境
7位	無料で利用	18.5	同年代の子どもが 多い	13.7	親も子どもも一緒 に楽しめる	19.1	立地・アクセス
8位	幼児用遊具の充 実	14.3	無料で利用	11.8	トイレや水飲み場 などの整備	15.4	利用形態
9位	トイレや水飲み場 などの整備	13.9	トイレや水飲み場 などの整備		子どもが自分で遊 べる	13.2	利用者
0位	動物や植物と触れ 合うことができる	10.5	自分たちのペース で過ごせる	8.8	動物や植物と触れ 合うことができる	12.5	過ごし方

子どもの場や人の繋がりの "選択肢"を増やすことの重要性 一多様な遊び・多様な遊び場所を持っている子どもほど幸福感が高い



#### 就学前の子どもが集積する保育施設への着目



2007年の横浜市のアンケート実態調査からは、 園庭が狭い/無い保育施設は、日常的に園外活動を行い、 周辺地域の公園や道、商店街等を園庭代わりに利用していることが 判明。

でも、地域とのつながりは薄く、悩んでいる保育施設も多数。

#### 「まち保育」に含まれる様々な活動例

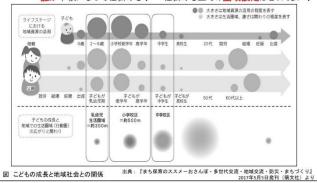


# 到.幼児期 よく行く場所までの平均移動時間と その場所の選択基準(評価)の関係 <mark>身近さ圏=</mark>徒歩で「近い」と評価できる圏域(約300m) ちなみに街区公園の誘致距離基準は250m • 近くにあるから利用する場所×遠くにあっても利用したい場の存在 親子にとっての「身近さ」はおおよそ時間にして5~7分、距離にして 250~300m程度(『乳幼児生活圏』)

#### 未就学児期から学童期前半の「身近な集いの環境」は重要!

× 立地・アクセスについて ● 設備・機能について ■ 環境について ▲ 利用者について ◆ 通ごし方について ― 多項式 (立地・アクセスについて)

- 子どもが地域で育てられていくこと、学童期のまちとの繋がりも視野に入れ、
- 子どもが"育つ"という子ども目線からが重要、その理解
- 各ライフステージで「地域」と関わることができるしかけ ⇒誰が中核になって仕掛ける? 仕掛ける上での圏域設定はどれくらい?









出典:『まち保育のススメーおさんぼ・多世代交流・地域交流・筋災・まちづくり』 2017年5月6日発刊(萌文社)より













# まち保育の4つのステージと多様な主体性の育み

"まち保育"の実践からみえたコミュニティデザイン、参加のデザイン要素

#### (1)まちで育てる

- ①保育施設がまちをフル活用する必然性の理解
- ②まちとの仲介ツールとして「日常のお散歩」へ注目 →子ども達自らが自分たちのまちを評価する「参加」の仕組みとしても機能

- ①同じまち(範囲)を違った視点でなんども歩くことの意義
- →お散歩ワークショップを軸に地域の「組織」と「活動」が繋げる
- ②媒体を通じた活動の見える化
- (3)まちが育てる
- ①関わった人たちにお願いする一受け入れることで増えていくコミュニティファン
- ②まちに暮らすたくさんの人と顔見知りになっ
- ③保育施設が「住民」として地域に受け入れられ連携する体制へ

#### (4)まちが育つ

- ①まちなかでの双方向の関係をより培う
- →楽しませてくれているまちへの感謝、感謝されて気づく自分のまちへの働きかけ ②継続することで子どもと関わりない人々に「子ども」の価値に気付く人が増える →「どこかの子」でなく「わがまちの子」という発言→"明瞭な"当事者性への育み
- ③地域まちづくりに子どもの視点を組み込むことで子どもも大人も変化する

# 子どもの育ちに「まち」は欠かせません。

本連続セミナーを通して、まち保育の意義や視点・効果についてお伝えしていきます。さらに(株)ゼンリンの「地図づくりで発見! まちたんけんキット」をベースに身近な「まち資源」をフルに活用したおさんぽマップを参加者のみなさんにも実際に試作してもらい、「子どもがまちで育つ」視点の大切さについて一緒に学び発見を楽しみたいと思います。 『まち保育のすすめ(萌文社、2017)より』

# ②まち保育連続セミナー

# 【研修会】「まち保育的おさんぽマップを作ってみよう」

- ー連続オンライン(Zoom)講座ー
- ■事前学習■ 2021 年 2 月 6 日(土)19:00~21:00 「おさんぽ」を通したまち保育の実践に向けてのレクチャー

オンライン開催 参加者 31 名

【主催】国際校庭園庭連合日本支部

【協力】まち保育研究会、株式会社ゼンリン

司会:松橋圭子(東京都市大学准教授、国際校庭園庭連合日本支部会員、まち保育研究会)

開会挨拶: 仙田 考 (鶴見大学短期大学部准教授、国際校庭園庭連合日本支部代表)

講師:三輪律江(横浜市立大学准教授、国際校庭園庭連合日本支部副代表)

#### 【事前学習スケジュール】

19:00 主催者挨拶

19:10 今日のレクチャー

- ①おさんぽマップってどんなの?
- ②おさんぽマップのネタさがし
- ③マップにまとめてみる
- ④さらにマップに様々な情報を重ねてまちの理解を深める
- ⑤マップをつくるプロセスを大事にする
- ⑥「地図作りで発見!まちたんけんキット」の活用方法の説明
- ⑦次回までの宿題のお知らせ

20:10~20:50(適宜)

各自ベース図を作ってみよう&質問タイム

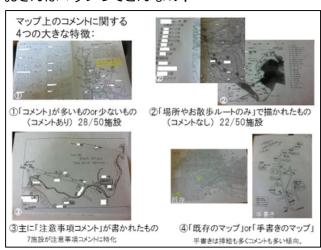
※必要なもの:プリンタ、のり、テープ、ハサミ(カッターでも可)

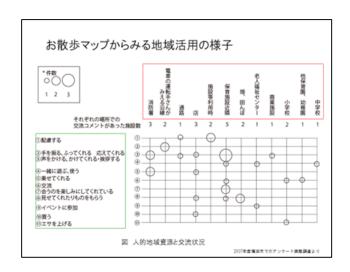
「<mark>おさんぽマップ」をつくるために</mark> いろんなテーマでまちあるきをしてみましょう。



#### 「まち保育」の視点や㈱ゼンリンの地図を活用したおさんぽマップ作成手法を学びました(配布資料より抜粋)

#### おさんぽマップってどんなの?





#### おさんぽマップのネタさがし



"防災アイテム"を探すのも一つです

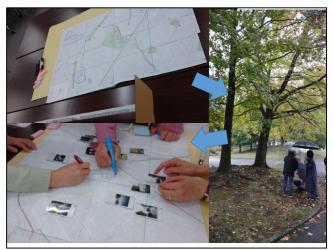
おさんぽマップワークショップから期待される防災・減災効果



- 乳幼児を含む子どもの目線でまちの危険箇所や防 災資源を発掘し、その情報を関係者間で共有でき る。子ども自身の防災力向上と子どもの目線に立っ た支援策を考えるきっかけになる。
   おさんばマップに「危険値所」や「防災資源」を書
- き込むだけで、手軽に防災マップを作成でき、防 災対策の負担を減らすことができる。 © 保育者、子ども・保護者、地域住民、小学校の先生
- などがワークショップに参加し、参加者・協力者同 士の交流が生まれる。
- 保育者が子どもとまちを点検する中で、関外活動 時に災害が発生することをイメージできる。防災以外にも多様なテーマを設定し、まち歩きと
- 防災以外にも多様なテーマを設定し、まち歩きと マップづくりを積み重ねれば、平常時との連続性 を確保しながら災害時の課題と対応を検討できる。

出典: 『まち保育のススメーおさんぼ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくり。 2017年5月5日祭刊(前文社)より

#### マップにまとめてみる





さらにマップに様々な情報を重ねてまちの理解を深める







#### マップをつくるプロセスを大事にする



## おさんぽマップづくりのポイント

(1)子ども達の目線、五感がフル活用できそうな

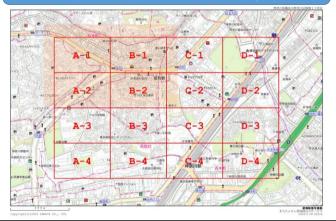
「場所やルートを発掘する」気持ちで

- ・地面から100cm以下の世界感を大事に
- ・音、におい、日向や日陰、風の道、といった情報もあえて収集する
- (2)近隣や行政との関係づくり、仲間づくりのきっかけにする気持ちで
- ・町内会などで作る安全・安心マップ、小学校の総合学習やPTA活動等で作る通学路点検マップ、子ども110番の家リストなどを入手をお願いすることできっかけづくりにする
- ・地図上で公園や地域施設拠点、お店などの場所の点検し、実際に 歩いてみる。
- (3)将来的に応援してくれる人材、連携できる形を探す気持ちで
- ・おさんぽを通じて知り合った人を「おさんぽ」途中の安心マンとして、一緒に歩いてくれるサポート隊として。いつもお散歩楽しませてくれて「まちにありがとう」という気持ちも大事ですね。

#### 地図作りで発見!まちたんけんキットの活用方法



#### ⑥地図はPDFファイルでダウンロードされます。 1ページ目がインデックスになっています。



# ・・・・こんな感じになります。 ③さらに公園や学校、他の保育園の位置等の基本的な情報を描き足して、「おさんばマップ」のベース図の完成です。

#### ◆次回までの宿題と提出方法◆

- ①提出は作ったおさんぽマップの画像(jpeg)かPDFで。
- ②おさんぽマップには
  - すてきな「タイトル」を!
  - ・おさんぽマップの特徴、工夫した点などのコメント も添えて提出してください。

締切:2021年5月15日(土)

提出先URLなどは後日お知らせします!!

次回はみなさんが作ったマップをグループでシェアしながら、

「まち保育の気づき」を話し合ってもらいます。まずはどんな形であれ オリジナルの『おさんぽマップ』を作ってみて下さい。

ひとつでなくてもよし、スタッフのみでもよし、子どもと一緒にでもよしいろんな視点でつくってみるのがおすすめです。



# ③まち保育連続セミナー

# 【研修会】「まち保育的おさんぽマップを作ってみよう」

- ー連続オンライン(Zoom)講座ー
- ■事後学習■ 2021 年 5 月 22 日(土)19:00~21:00
- ―おさんぽマップづくりを通して得た地域資源の理解と共有―

オンライン開催 参加者 19 名

【主催】国際校庭園庭連合日本支部

【協力】まち保育研究会、株式会社ゼンリン

司会:松橋圭子(東京都市大学准教授、国際校庭園庭連合日本支部会員、まち保育研究会)

開会挨拶: 仙田 考 (田園調布学園大学准教授、国際校庭園庭連合日本支部代表)

講師:三輪律江(横浜市立大学教授、国際校庭園庭連合日本支部副代表

ファシリテーター: 仙田考、鮫島良一、木村創、宮里耕太、松橋圭子

#### 【事後学習スケジュール】

19:00~19:05 主催者挨拶

19:05~19:50 グループワーク 1 作ってみたポイント、視点、苦労した点について発表。

自慢(作成のポイント・作り方の工夫・苦労したところなど)

19:50~20:20 各グループ報告

20:20~20:40 グループワーク 2 報告を受けた感想・視点について、活用の仕方、

感想を共有したり、次に活かせるような話をざっくばらんに

20:40~20:50 まとめ&質問タイム

20:50~21:00 次回講演会のご案内

## 前回(事前学習)のおさらい

- (1)おさんぽマップってどんなもの?
- ②おさんぽマップのネタさがし
- ③マップにまとめてみる
- ④さらにマップに様々な情報を重ねて まちの理解を深める
- ⑤マップをつくるプロセスを大事にする

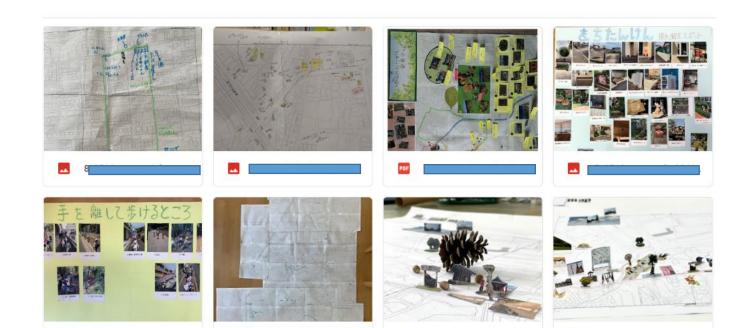
# おさんぽマップづくりのポイント

(1)子ども達の目線、五感がフル活用できそうな

「場所やルートを発掘する」気持ちで

- ・地面から100cm以下の世界感を大事に
- ・音、におい、日向や日陰、風の道、といった情報もあえて収集する
- (2)近隣や行政との関係づくり、仲間づくりのきっかけにする気持ちで
- ・町内会などで作る安全・安心マップ、小学校の総合学習やPTA活動等で作る通学路点検マップ、子ども110番の家リストなどを入手をお願いすることできっかけづくりにする
- ・地図上で公園や地域施設拠点、お店などの場所の点検し、実際に歩いてみる。
- (3) 将来的に応援してくれる人材、連携できる形を探す気持ちで
- ・おさんぽを通じて知り合った人を「おさんぽ」途中の安心マンとして、一緒に歩いてくれるサポート隊として。いつもお散歩楽しませてくれて「まちにありがとう」という気持ちも大事ですね。

## 各自が作成したマップを持ち寄り、5 グループに分かれてのグループワークと共有(提出資料より抜粋)



な~んにもないなんて「まち」はない。 目的地化しないで「まち」を楽しむ。 ゆっくり歩くことで「出会う」「知り合う」。 テーマをもって歩くことを重ねる。 地図にすることで「共有」する。 いろんな「ルート」になる。





# 【グループディスカッションでの参加者同士の共有】抜粋

- ・今回は大人ひとりで歩きましたが、子どもたちと一緒に歩いてみたいです。子ども食堂の活動としても面白 いと思いました。
- ·全国からの参加者と話せてとても楽しかったです。
- ・実際に子どもたちとさんぽすることで見えたもの、出会えたことがたくさんありました。(普段なら気にしない草花や、自分ひとりだったら話しかけられない通行人など)大変勉強になりました。
- ・無目的な散歩をしてみたいと思いました。足元の植物などに気付き、それを職員研修で持ち寄ると面白そう だと感じました。
- ·QRコードを入れて、地域のサウンドマップを作ってみたい。
- ・子どもの目線でマップを作ると見えるものが変わるということが理解できました。また、親子のワークショップや職員研修のテーマとして活用できそうだとも思いました。さらに、それらの活動を通して、「お散歩の質」が高められそうだと感じました!



